**高等部情報科指導略案**

文責：東山　喜一

　１．科目・単元　　情報Ⅰ・情報デザイン

　２．日時　　２０２４年９月１９日（木）　１限目

　３．場所　　３階　LAN教室

　４．生徒　　高等部２年１組（２名）

　５．指導者　　高等部　東山　喜一

　６．単元のねらい

* わかりやすく伝えたり誤解を防いだりするための一般的な工夫や方法を確認し、それらが自分たちの障がいに対しても適しているかどうかを判断できる。
* 自他の見え方や立場を考慮しながら、相手にわかりやすく伝える工夫を考えることができる。

　７．公開のねらい

* 生徒の保有視力を活用できる学習環境を、特別な機器を使用せず、かつ視覚支援学校以外の学校でも実践可能な方法で整備し、議論の出発点とする。

８．学習環境整備による支援方法（ICT活用方法）

1. 生徒のわかりやすさを向上しながら負荷を軽減する環境を構築するために、Google Workspaceを活用する。
   * 教材提示にMeetの画面共有機能を活用し、生徒にとって見やすく、わかりやすい環境を保証する。
   * ワークシートなどの配付資料を電子化し、教材のレイアウト崩れを防ぐとともに、持ち運びの利便性を向上させる。
   * ワークシートのファイル形式は、以下の理由によりGoogle Spreadsheet形式とする。

　１）誤操作による本文消去を起こしにくくし、入力が指定された箇所をわかりやすく示すため。

２）持ち帰ったGIGA端末（iPad第９世代）でもワークシートのレイアウトが崩れないようにするため。

　３）普段の操作を通じて表計算ソフトの特性に慣れる機会を設けるため。

* + Spreadsheetファイルのアクセス権を教員と生徒双方に付与し、課題の添削を容易にするとともに、フォントタイプや配色に配慮しながらワークシートをカスタマイズできる環境を整える。

1. 生徒は教材提示用端末とワークシート入力および操作実習用端末の2台を使い分ける。使用端末はGIGA端末とLAN教室のデスクトップPC（Windows 10）であり、2台の使い分けは、生徒自身が見やすさや操作のしやすさに応じて選択する。生徒が自ら選択した結果、2名ともピンチアウト機能を活用して見やすい環境を整えやすいGIGA端末で教材を確認し、画面サイズが大きくキーボードのタッチ感が分かりやすいデスクトップPCでワークシートの入力や操作実習を行っている。

９．展開

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 時間 | 学習内容 | 指導上の留意点 | 備考 |
| 【導入】  ８:５０  (５分)  【展開①】  ８:55  (10分)  【展開②】  ９:05  （３０分）  【まとめ】  ９：３５  （５分） | 接続準備  挨拶  本時の内容の説明  ユーザビリティとインターフェイス  情報デザインの工夫  ・本時の振り返り  ・配色と色覚バリアフリーについて学習するための予告 | ・準備はルーチンワークとして取り組んでいるものなので、自力での操作を基本とする。  ・例題では生徒が意見を表出しやすくなるように、「出題されたダイアログのどこがわかりにくいのか」や「この画面がどんな誤解を招きそうなのか」という視点で導く。  ・各自の見え方には違いがあるが、情報デザインに関する一般的な事項を学ぶ時間とする。  ・色の見分けがつきにくい生徒の実態把握を兼ねて、教科書掲載の図版を見た感想を聞き取る。 | ・使用機材  ①GIGA端末iPad（Meetを活用した教材・板書投影用、ＵＤブラウザを用いた教科書閲覧用）  ②PC（Googleスプレッドシート形式のワークシート入力用）  ・生徒は、ClassroomからMeetやワークシートにアクセスする。 |